
ソートフィルター

菜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソートフィルター

【Nコード】

N7991A

【作者名】

菜月

【あらすじ】

ショートショートなので粗筋はかんべん！脳の空き時間をアナログフィルターとして売ってバイトを始めた男の話です。

ソート・フィルター

「まったく君は何でこんな間違いをするのかね。この間もこれと同じ間違いじゃない

か。この間といい今回といい単純な書式ミス。まったく君は……」

課長のいつもの部下いじめが始まった。ネチネチネチネチとこんな風にずうずう

うつつと続くんた。これも今日までだ。

まったくこんな課長の下にいただけで鳥肌がたってジンマシンが出て悪寒が走る。

こんな会社も明日でドューダってトラバるのだ。相変わらずネチネチネチとイヤミを

言う課長の目の前に辞表をどおっつーっと叩きつけ、目を白黒させている課長を

尻目にさつさと俺はあこがれの一流企業の階段を踏み出したのだ。

かねてよりネット内の試験で適性を認められ、あの大企業の最新開発部へ抜擢されるのだ。

情報産業の世にあつてF社といやあ一流中の一流である。そんなところへ超2流企業

の俺がどうして引き抜かれたのかはイマイチ不思議だが。

話を聞くと納得する。「いまやコンピューターの発達・スピードは限界近くまで発

達してしまい軒並み頭打ちです。そこで人間の脳の空き時間を利用する方法が考えら

れたのです。特にアナログ処理とか汎用処理を人間の潜在意識に行わせるのです。

潜在意識を使う為に個人的特性・適性などが処理に影響します
が調査の結果あなた

はこの手の処理でも汎用性が高く、使用頻度が多いソート・フィル
タに向いている事

が判ったのです…。実際の仕事ですが、脳電コイルというのを頭に
張り付けて貰うだ

けです。脳電コイルは弱電流を脳に与えるのです。脳は殆ど気が付
きませんが、潜在

意識は無意識で感じてそれを処理するのです。連続した映像の中に
一瞬だけCMなど

を入れるとそれが潜在意識に残ってその商品が売れるというのがあ
りました。が、それ
と同じな訳です。」

判ったような判らないような説明だったが。

ま、そっぴやオレは整理整頓が好きできちようめんな方ではあ
る。ソート・フィル

タが向いてると言えばそれでいいのだ。

そんな訳で（どんな訳か知らないが）、オレはあんな会社が嫌
で嫌でたまらなかつ

た事も手伝ってその仕事にドューダした。仕事といっても潜在意識
を使うだけだから

日中は何をしてても構わない。小さな脳電コイルを頭に張り付けて
いるだけ、この脳

電コイルが脳とコンピュータのインターフェイスという訳。それで
いて24時間稼働

だから、給料もいい。勿論これは俺が使用頻度の高いソート・フィ
ルタに向いていた

からでもある。この手の給与はなんでも使用頻度と時給だそうだか
らだ。

まあああーったく。調子のいいこと。金と暇。それを

満たしてくれるこの

商売はやめられない。しかし、これも1ヶ月程だった。

最初の1ヶ月が過ぎると何故か微熱が出たり、気持ちが悪くなったり。医者で調べ

ても精神的な物でしようくらいしか判らない。

そこで、「問題が起こったら連絡して会社に来て下さい」という事でF社に向かった。

そこには、アノいやいやな課長が。「カ、課長……。どうしてここに」

「いや……。君もこの会社に引き抜かれてたのかね。私も先週から私の潜在意識に目

つけられてね。なんでも汎用フィルタ類の類を総括するコ・プリプロセッセとして就

職することにしたんだよ。今日は会社から私の受け持ったフィルタの一つが不調だか

ら面倒を見るようにと言われてきたのだが。そうか、君が私の下で働いていたフィル

タだったのかね。うんうん。君の事ならなんでも知っている。さあさあ、君の問題点を話したまえ」

課長の頭には小さな脳電コイルが光っていた。そおか、やつとあの課長から離れた

と思ったのに。こんないい生活やめる訳にもいかないし、前の会社なら会社にいる時

だけ我慢すれ良かった訳だが。俺は脳電コイルでこれから4、6時中こいつに繋がる

ようになってしまったのだ。

俺は鳥肌もたってジンマシンも出てきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7991a/>

ソートフィルター

2010年10月14日01時07分発行